

## 2017年度 コミュニケーション入学生への挨拶

2016年10月23日 日曜日  
京都造形芸術大学学長 尾池和夫

皆さん、京都造形芸術大学への入学を、こころからお祝いします。今日は、2017年度の入学前学習プログラムの開講式です。京都造形芸術大学の教職員を代表して、この瓜生山学園のキャンパスに、皆さんを心から歓迎します。

夏期コミュニケーション入学、秋期コミュニケーション入学などの関門を突破して、2017年度の0年生プログラム、すなわち入学前学習に参加できる方が770名おられます。その中には中国からの23名をはじめ、韓国、インドネシアなど、41名の海外からの参加もあります。13学科、22コースにそれぞれの方が希望に満ちて挑戦してくださっています。

コミュニケーション入試を本学では、体験授業型AO入試として位置づけており、今日この開講式に参加された皆さんは、本学の方針に沿って準備され、時間をかけて実施された入学試験を見事に通過しました。そのことを大きな誇りとして、これからの学習に取りかかってください。

本学の教育目標である「芸術を社会に活かすことのできる人材の育成」ということを基本にして、私たち教職員が皆さんの相手をします。この大学で大学生生活を送ろうという意思で本学を選んでくださった皆さんにまず感謝しながら、その期待に応える教育に、なお一層、力を入れてまいります。

昨日まで、私は北海道の洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパークにいました。洞爺湖の湖畔の宿を経営する女将さんが、「私の娘は京都造形芸術大学で映画学科に学び、卒業して今、会社でとてもいい仕事をさせてもらっています」と、私の顔を見るなり話してくれました。また、友人が通信教育部で頑張っていますという方の話も聞きました。

先日、この大学では卒業生が集まって学園の40周年を祝うホームカミングデーという行事を開催しました。その時参加した卒業生から、私自身も大学の歴史を教えて貰い、この学園で学んでよかったという声を聞きました。また、東京で会社を経営する卒業生からは、来年こそホームカミングデーに参加したいから、早く日を決めてほしいというメールをいただきました。

これから来年4月に入学しようという皆さんに、いきなり卒業生の活躍を話すのはなぜかという、これから皆さんが始める入学前の0年生プログラムが、皆さんの卒業後の仕事に

たいへん深く関係しているからです。大学に入ってから当然、卒業して始める仕事や大学院への進学のことを考えていただきますが、その前に、0年生プログラムの中でしっかりと、今までの学習で得た知識と能力をさらに確実に仕上げたいと思います。そのことが大学生として自ら考え、自ら学習する力となり、大学で得たものを活かして仕事をするときの、基本的な支えになるからです。

また、学習する傍ら、この京都にいる機会に、多くのものをよく観察してほしいと思います。学園のキャンパスの中もよく観察して、例えば、大階段の途中にある大きな大理石の輪は何だろうかとか、階段を登ったフロアにある人物像は何者なのかというようなことを考えてみましょう。

さらに今、人間館の1階にある Galerie Aube で開催されている「地球の上に生きる Living on the Earth 2016」の写真を見つめて、今現在、皆さんの学習と同時に起こっている世界の出来事を見て、考えてほしいと思います。

エコロジーという言葉がありますが、それは生態学という意味でもあり、生物集団とその環境に関連して、エネルギーや物質や水の循環を考える概念でもあります。写真展を見ながら、戦争の問題、民族の問題、環境の問題というような世界の抱える課題について考えることも、皆さんが大学を卒業して仕事を始めるときに、たちまち出会う課題でもあります。今から、そのような課題を見つめることができるいい機会が、この人間館のフロアで提供されているのです。

0年生プログラムは、たいへん重い内容だと感じるかもしれません。しかし、大学入試に合格したことが人生のゴールではありません。入試に受かってから入学式までの半年にどれだけの努力を続けたかということが、皆さんの、皆さん1人ひとりの未来を決定することになります。

来年4月の入学式まで、本学の教職員との対話によって、またこれからともに学ぶ仲間との対話によって、そして自分との対話によって、0年生プログラムの学習を効果的に深めていただきたいと思います。そのことを期待して、私の今日の式辞とします。

合格おめでとうございます。ありがとうございました。